

整形外科

■診療科長 帖佐 悦男

■研修実施担当者 濱田 浩朗



教育施設として認定を受けている学会

日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会、日本リウマチ学会、日本脊椎脊髄病学会

診療科の概要

整形外科（運動器科）は、運動器を構成するすべての組織（骨、軟骨、筋、靭帯、神経など）の疾病・外傷を対象とし、その病態の解明と治療法の開発および診療を行う専門領域です。その対象は下肢（股、膝、足、足指）・脊椎・脊髄・骨盤・上肢（肩、肘、手、手指）など広範囲にわたりさらに 新生児～高齢者まで全ての年齢層が対象になり、患者数が極めて多い診療科です。

また疾病以外にも、プロスポーツや国体選手の帯同、国体選手のメディカルチェック、小中学校における運動器検診、少年野球検診、ロコモ予防事業等を行っております。

このように地域に根差した医療を行うとともにスポーツ県としての宮崎を世界に発信できるようにしたいと考え、日々研鑽に励んでおります。

研修症例の特徴

本院の特徴は、専門医取得のための整形外科疾患全ての研修が本院のみでできることです。

入院加療を行っている症例は、救急外傷（多発・重度外傷）、骨折などの外傷はもちろんのこと、変形性関節症などに対する再生医療としての骨切り術・関節形成術や人工関節置換術、靭帯損傷に対する靭帯再建や腱板損傷や肩関節脱臼に対する関節鏡視下手術、顕微鏡手術を導入した脊

椎外科、スポーツ選手管理を行うスポーツ整形、手の機能再建や多指症など先天性疾患に対する形成術を中心とした手外科、骨軟部腫瘍に対する化学療法や再建術、薬物療法から機能再建術まで担う関節リウマチ、小児整形外科、骨粗鬆症など、研修医はすべての症例を研修することができます。手術症例数は年間 1300 例で、同規模の病院では最多です。

研修目標

【一般目標 (GIO)】

診察・診断・治療を通じて医師としての心構え、患者および家族・スタッフへの関わり方、疾患に対する取り組み方などを身につける。整形外科領

域については運動器の解剖・機能・重要性を十分理解し、基本的な考え方、診察方法、診断力を習得し基本外科手技を身につける。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 診断に必要な情報が得られるような的確な医療面接ができる。
- 指導医のもと整形外科的診察を行いそれぞれの所見について理解できる。
- 医療面接、身体所見から得られた情報をもとに必要な画像検査および検体検査の判断ができる。
- 画像検査および検体検査の結果を説明できる。
- 得られた情報から診断を行い、的確にプレゼンテーションできる。
- 保存的治療と観血的治療のそれぞれの長所短所を理解できる。
- ギプス固定とその除去ができる。
- 清潔操作を行うことができる。
- 基本的な外科手技ができる。

研修方略

【指導医および指導体制】

当教室は、下肢、脊椎、スポーツ・上肢の3つのグループに分かれ診療を行っております。研修の指導は、グループによるチーム指導を行います。各グループの指導医は、全員整形外科専門医を取得しており、数多くの症例を経験しています。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

各グループのカンファレンスは週1回あり、主に術前の症例についての検討が行われます。教室内の全体のカンファレンスは週2回あります。

術前カンファはそれぞれの症例について、担当医がプレゼンテーションを行い全員で検討して、方針の決定を行います。術後カンファは手術症例に対して術中術後の経過報告等を行います。また、学会報告や研究報告について随時その内容について全員で協議します。

後期研修は、原則として大学及び関連施設にて研修することによって、幅広い整形外科の知識と技術を持った整形外科専門医を育成し、その後更なる subspecialty 修得の基礎作りを行います。

また、月1回行われる市中病院との共同整形外科カンファレンスにおいて、症例報告や教育的レクチャーの受講を行います。

1年においては宮崎整形外科懇話会、宮崎県スポーツ学会、宮崎リハビリテーション研究会、宮崎リウマチ研究会、ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー、ひむか運動器セミナーなど整形外科の最新の知見を得る機会や研修によって学んだことを発表する機会などが数多く有ります。

【週間スケジュール】

	午前	午後
月	手術	手術 グループカンファレンス（下肢グループ） グループカンファレンス（スポーツ・上肢グループ）
火	回診 外来	病棟
水	外来	脊髓造影 他各種検査 グループカンファレンス（脊椎グループ）
木	手術	手術 術前カンファレンス
金	リサーチカンファレンス 外来	術後カンファレンス 医局会 回診

研修評価

- オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）
- 臨床実習内容に基づいて指導医が評価する。また、スタッフも研修医の態度評価を行う。

指導医・先輩医師からのメッセージ

整形外科は、運動器の痛み・しびれ・変形・機能障害など明らかな自覚症状を有する疾患を対象にすることが多く、我々は多くの患者さんが苦痛から解放されて、笑顔が取り戻せるように日々診療・研究・教育を行っています。

対象となる疾患とは骨折などの外傷、先天性疾患、変性疾患、関節リウマチ、腫瘍、スポーツ傷害、骨粗鬆症など多岐にわたっており、年齢も小児から高齢者まで幅広く、治療法も薬物療法・手術療法・リハビリテーションなど多種に及んでいてとてもやりがいがある診療科です。

研修中は3つのグループのいずれかに所属し、整形外科の考え方・手技を習得します。研修で学んだ外科手技や診断学はきっと医師としての将来役に立つものになると思います。